

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02408

研究課題名(和文) 狩野亨吉文書の調査を中心とした近代日本の知的ネットワークに関する基礎研究

研究課題名(英文) A study of the Kano Kokichi documents in Komaba library

研究代表者

田村 隆 (Tamura, Takashi)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：70432896

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：東京大学駒場図書館所蔵の狩野亨吉文書を用いた研究を展開した。調査は校務文書と書簡を主な対象とし、それぞれの内容を把握しつつ封入と目録化を進めた。調査を通じて、狩野亨吉の特に旧制第一高等学校(一高)校長時代における事績や交友関係、および一高の初期の国際交流のありようが新たに明らかになった。その成果は個々の論文のほか、二度の企画展示において公表した(二度目は東京大学東アジア藝文書院(EAA)との共催)。狩野亨吉の出身地である秋田県大館市での資料調査や、長野県松本市の旧制高等学校記念館夏期教育セミナーでのセッション発表、九州大学でのシンポジウム「狩野亨吉研究の現在」なども成果として挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

狩野亨吉は文学・思想・歴史・教育・天文学など、明治期の学問を考える上で欠かせない人物であるとともに、その膨大な蔵書でも知られる。東京大学駒場図書館所蔵の狩野亨吉文書は狩野の知の背景を知る上で重要な資料群であり、封入等によりそれらをさらに利用しやすい形に整備し、調査を通じて狩野亨吉の特に旧制第一高等学校(一高)校長時代における事績や交友関係、および一高の初期の国際交流のありようが新たに明らかになったことで、狩野旧蔵書を所蔵する諸機関や他の旧制高校研究者と連携するフィールドが確立できた。

研究成果の概要(英文)：We have advanced the research about the Kano Kokichi documents in Komaba library(putting in envelopes and cataloging). The survey focused on school documents(especially in the first high school) and letters. We held two exhibitions about his achievements, friendships, and the early acceptance of Chinese students in the first high school (from 1899).

研究分野：日本古典文学

キーワード：狩野亨吉 第一高等学校 東京大学 駒場図書館 駒場博物館 清国留学生 デジタル化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

狩野亨吉(かのうこうきち)(1865~1942)は幕末の出羽国秋田郡大館の生まれで、旧制第一高等学校の校長や京都帝国大学の初代文科大学長などを歴任した。一方、能筆家としても知られており、岩波書店の『漱石全集』の題字も揮毫しているが、これは一高時代の教え子である岩波書店創業者岩波茂雄の依頼による。また夏目漱石と帝大の同期であり、五高・一高の同僚であった。狩野は近代文学勃興期を教育の面で支えていた人物といえよう。狩野の名前は現在、その蒐書を以て知られている。10万冊を超える膨大な彼の旧蔵書は「狩野文庫」として東北大学附属図書館に収められている。特に『史記』と『類聚国史』の二点は国宝に指定され、申請者も頻繁に利用する「狩野文庫」は「東北大学」に属するというイメージが根強いが、研究協力者の山根泰志(九州大学附属図書館)による近年の調査の結果、九州大学においても狩野から約2000部7500冊に及ぶ書物を購入していたことが判明した。受け入れの事実自体は青江舜二郎『狩野亨吉の生涯』(中公文庫、1987年)にも記載があるが、狩野の旧蔵書譲渡の実態は長らく不明とされていた。これらの受け入れ経緯や交友関係を知るには、東京大学駒場図書館に所蔵される「狩野亨吉文書」の利用が欠かせない。2002年に井上政久・井上佳世子によって編まれた『狩野亨吉博士遺蔵文書仮目録』によれば、書簡類(19300通)、日記類(47冊)、手記(12冊)、授業ノート(11冊)、蔵書目録(11冊)、譲渡目録(15冊)、売立目録(18冊)、一高を含めた教育業務等の書類(455点)が確認される。申請者は従来、書簡から得られる情報に関心を持っており、ここに含まれる「狩野亨吉文書」の書簡類にも注目してきた。「狩野亨吉文書」の一部は、2015年に東京大学駒場博物館の「教育者・蒐書家・鑑定人 狩野亨吉生誕150周年記念展」(10/17~12/6)で展示された。旧蔵書譲渡の過程を部分的に示したこの展示は、東京大学名誉教授の安達裕之と本研究の研究分担者である丹羽みさとが中心となって企画・構成したものである。この展示は「狩野亨吉文書」の存在を広く一般に知らせるものとなったが、実際に書類を活用するにはさまざまな困難が山積している。第一に、目録が公刊されていない。上述の『狩野亨吉博士遺蔵文書仮目録』も私家版であり、学内に数部のみ所蔵している状況であるため、学外の研究者が駒場図書館の「狩野亨吉文書」を閲覧するのは困難であり、全貌を把握することすら容易ではない。第二に、上記の資料は狩野亨吉およびその旧蔵書を解明する上で欠かせないものであるにもかかわらず、写真などの複製物が一切ないために書簡の解読などに支障を来している。第二の困難から第一の事情に繋がっている面もある。もし狩野亨吉資料全点の写真が準備され、それらの一点ずつに書誌情報を加えて目録を整備すれば、これらの懸念は一挙に解消され、およそ2万点近い書簡類をはじめとする狩野亨吉資料のデータベースが初めて構築されることになる。

## 2. 研究の目的

本研究では、東京大学駒場図書館に所蔵される「狩野亨吉文書」(書簡・日記・蔵書目録等)について、井上政久・井上佳世子編『狩野亨吉博士遺蔵文書仮目録』(2002年3月)に代表されるこれまでの研究の蓄積、および2015年度に東京大学駒場博物館で開催された「教育者・蒐書家・鑑定人 狩野亨吉生誕150周年記念展」の成果をふまえ、2万点に及ぶ資料の全点を対象に書誌調査と写真撮影を進める。今後これらの資料を活用した本格的な狩野亨吉研究・狩野文庫研究が展開できるよう、狩野亨吉の旧蔵書を所蔵する東北大学・九州大学等とも連携しつつ目録と画像の公開に向けて研究環境を整備し、その学術資源としての価値を学内外に向けて発信することを目的とする。

### 3. 研究の方法

『狩野亨吉博士遺蔵文書仮目録』をベースに、東京大学駒場図書館に所蔵されている「狩野亨吉文書」の書簡類の書誌調査を行い、全体像を把握する。これによって狩野亨吉を中心とした近代前期の人的ネットワークの解明と、文学・教育学・歴史学・書物学・天文学・数学など、様々な学問分野における状況把握が予想される。まずは、2015年度に開催された「教育者・菟書家・鑑定人 狩野亨吉生誕 150周年記念展」の図録を参照しながら、悉皆書誌調査と写真撮影を進める。特に2万通近くある書簡類は、紙片という資料の性質から散逸しがちであり、予防の為まずここから着手する。封入作業は散逸の予防と将来的に活発な「文書」の利用を促すための必須作業である。調査・整理を基に、「狩野亨吉文書」書簡データベース（差し出し人名、宛名、消印、種類、数量、内容、狩野との関係、実物写真など）を構築する。書簡の撮影によって、資料の保存と研究の便宜を図る。書簡の翻刻を通して、各分野の著名人と狩野との影響関係や、狩野の知見についての解析を目指す。公刊された文章からは見えてこない文学・科学研究の進展や、教育人事の事情、近代文学の発展などについて考察していきたい。また「狩野亨吉文書」の書簡には、1899年から1905年まで勤務した旧制第一高等学校時代の生徒達からのものも含まれている。東京大学駒場博物館や東京大学文書館などに残された狩野亨吉の勤務状況、学生の寮日誌等と照合し、当時の高等教育機関における教員の動向と影響力についても考察していきたい。「狩野亨吉文書」の調査と並行して、狩野亨吉の旧蔵書を保有している東北大学附属図書館や京都大学附属図書館、九州大学附属図書館、都立中央図書館等の諸機関との連携研究を図る。狩野の旧蔵書には国宝を含む古典籍資料が多く、その収集経緯（書誌学的研究）や、各資料を利用した狩野の業績（鑑定学的研究）等について、各機関の図書館員や研究者と研究会を開き、相互の情報を共有することで狩野の広範囲に及ぶ知識の解明を目指す。

### 4. 研究成果

#### 個人宛書簡調査

研究協力者の川下俊文を中心に、鶴田奈月および学部学生とともに、狩野亨吉文書の大半を占める個人宛書簡の調査・整理作業を主な研究活動として行った。1通ごとに発信者名・発信者住所・年月日・数量・内容などの基礎的事項を調査し、データを蓄積した。2017年からの3年間、ほぼ毎週の調査を続けたことにより、約2万通にのぼる書簡のうち7割程度の調査を終えることができた。これによって、ほとんど活用されることのなかった狩野亨吉文書の全体像がようやく明らかになりつつあり、将来的に学外者の研究利用に供するためにも不可欠な準備作業を大きく進展させることができた。

「第24回夏期教育セミナー」（於旧制高等学校記念館、長野県松本市、8月17-18日）

科研メンバーによるセッション発表を行った。司会は研究分担者の折茂克哉が務めた。

研究代表者の田村隆は「明治30年代の一高」と題して狩野亨吉が校長を務めた明治31～38年の一高の事績を振り返るとともに、その中で狩野亨吉が果たした役割について報告した。その上で、現在でも駒場キャンパス内に残る二体の一高教授像、プッチール像とアリヴェー像について、狩野亨吉文書を用いて製作の経緯などを詳しく紹介した。

研究分担者の丹羽みさとは一高医学部について報告した。狩野亨吉は、明治31年から明治34

年まで第一高等学校校長として医学部にも関わっていた。当時の医学部は千葉を本拠地とし、卒業後は即戦力となるような医学重視の教育が主であり、大学進学者がそのほとんどを占める本郷の本科・予科とは教育方針も目的も異なっていた。この複雑な組織の実態と狩野の掌握について、東京大学駒場図書館に残されている狩野文庫の書簡や、『万朝報』をはじめとする当時の新聞記事、授業ノート等から考察を加えた。

研究協力者の川下俊文は、「第二臨時教員養成所 一高における教員養成」と題して発表した。これは旧制第一高等学校(一高)に1902年度から1907年度まで、全国的な中等学校教員の不足を補うために設置されていた「第二臨時教員養成所」を主題とする。同養成所は極めて短命に終わったためか、『第一高等学校五十年史』・『東京大学百年史』といった一高の沿革史のなかでも簡略な記述しかなされていない。これに対し、同養成所は狩野亨吉が一高校長を務めた時期に設置されたため、狩野亨吉文書には養成所設置に関する公文書、養成所の生徒からの書簡、そして養成所卒業生の就職先である中等学校の校長からの書簡といった、公私の両面にわたる主要な資料が網羅されている。これらの資料を利用して、養成所の設置経緯から卒業生の就職状況までを具体的に明らかにすることができた。

シンポジウム「狩野亨吉研究の現在」(於九州大学医学図書館、福岡県福岡市、11月17日) 科研メンバーによる合同発表を行った。研究代表者の田村隆は、「狩野亨吉科研の三年間」と題して科研による三年間の研究事業を総括し、研究分担者の丹羽みさとは一高医学部について、研究協力者の川下俊文は第二臨時教員養成所について、同じく研究協力者の山根泰志は九州大学所蔵の狩野文庫について調査の進展を加味して研究発表を行った。研究分担者の折茂克哉と連携研究者の曽根原理がディスカッサントを、研究協力者の山根泰志が司会を務めた。

「一高中国人留学生と101号館の歴史展」(東京大学東アジア藝文書院(EAA)との共催、於東京大学駒場キャンパス101号館・駒場図書館)

本科研プロジェクトも共催として参加し、狩野亨吉文書のうち明治30年代の一高による清国留学生受け入れに関する資料を選定し、解題を執筆した。研究代表者の田村隆は、狩野亨吉の一高入学式辞や『清国京師大学堂留学生二関スル第一年報告書』、『校友会雑誌』などの資料に基づきつつ、清国留学生受け入れの草創期について解説した。研究協力者の川下俊文は清国京師大学堂からの留学生派遣について、京師大学堂の日本人教官たちと一高の狩野亨吉校長とのやり取りを中心に、日清双方の学校が協力して留学生事業を進めた様子を紹介した。同じく研究協力者の鶴田奈月は、は第一高等学校側が実施した清国留学生用の特別カリキュラムの概説の執筆、一高における清国留学生関連年表の作成を担当した。作業にあたっては、主として狩野亨吉が文部省に宛てた『清国京師大学堂留学生二関スル第一年報告書』及び第二年報告書に基づきつつ、下書き等他文書も参照した。項目別に区切られていた報告書の内容を時系列に沿って並べなおすことで留学生の活動の総体を把握しやすくし、且つ公的資料から削除された情報を加えた年表には、今後の留学生研究における資料としての貢献が見込まれる。また、今回の調査によって公式の報告書では一切言及されない私費留学生の動向も一部明らかにでき、これまで不明だった明治38年度の受け入れ人数と氏名を確定できた点も成果といえる。

同展示の一部(第二会場)は新型コロナウイルス感染症流行の影響により開催延期となったが、展示リストと解題をまとめたパンフレットを研究成果として作成した。日中両国の交流に大きな障壁が生じている現状ではあるが、このように両国協力の歴史を振り返ることは、分断の進みかねない現状を乗り越えるためにも有意義な事業であると信じる。本科研プロジェクトの最後

の成果として、その一端を担うことができたことは望外の喜びである。

#### その他

2018年9月には狩野亨吉の故郷である秋田県大館市を訪れ、博物館・資料館の調査のほか、狩野亨吉生家跡なども巡った。また、2019年7月には東京大学教養学部創立70周年記念展示「一高校長時代の狩野亨吉 教養学部の前史として」を開催した。このときのパンフレットはUTokyo Repositoryにおいて公開されている(<http://hdl.handle.net/2261/00077200>)。他に、駒場キャンパスでの「狩野亨吉研究会」や、東北大学での打ち合わせ等も行った。また、狩野亨吉文書のうち特に校務文書に関しては将来的にデジタル公開を目指しており、2019年度の科研費においてその一部を写真撮影した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 田村隆	4. 巻 2018
2. 論文標題 一高のオリーブ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学環境報告書2018	6. 最初と最後の頁 p.19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 丹羽みさと	4. 巻 2019
2. 論文標題 江戸川乱歩旧蔵本小考 『安政雑誌』と『藤岡屋日記』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 江戸川乱歩新世紀	6. 最初と最後の頁 pp.177-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川下俊文（研究協力者）	4. 巻 23
2. 論文標題 久保田藩士狩野家と戊辰戦争 狩野亨吉博士遺蔵文書の新資料をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 超域文化科学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.25-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川下俊文（研究協力者）	4. 巻 35
2. 論文標題 狩野良知『三策』の成立と書誌	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較文学・文化論集	6. 最初と最後の頁 pp.13-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田村 隆	4. 巻 22
2. 論文標題 在原業平「月やあらぬ」歌再考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 超域文化科学紀要	6. 最初と最後の頁 99-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽みさと	4. 巻 118
2. 論文標題 真山青果の『好色五人女』解釈 八百屋お七の「匂い」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立教大学日本文学	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽みさと	4. 巻 17
2. 論文標題 江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録 1 日本之部	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大衆文化	6. 最初と最後の頁 43-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽みさと	4. 巻 2018
2. 論文標題 乱歩旧蔵・新規購入本『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 センター通信	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽みさと	4. 巻 18
2. 論文標題 江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係』目録 2 和本目録、洋書目録、西洋に関するもの、東洋に関するもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『大衆文化』	6. 最初と最後の頁 47-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村隆	4. 巻 56
2. 論文標題 龍眼木・水衝石・蘭	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 むらさき	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 丹羽みさと
2. 発表標題 雲を凌ぐ『押絵と旅する男』と浅草十二階 江戸川乱歩の嗜好
3. 学会等名 バルトン会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村 隆
2. 発表標題 王昭君説話の語り方
3. 学会等名 セミナー「漢籍と日本」（招待講演）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 田村 隆
2. 発表標題 一高旧蔵書と狩野亨吉
3. 学会等名 狩野亨吉研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 折茂克哉
2. 発表標題 文化資源としての個人文書 狩野亨吉文書について
3. 学会等名 狩野亨吉研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹羽みさと
2. 発表標題 司馬遼太郎と狩野亨吉 狩野関係資料の落ち穂拾い
3. 学会等名 狩野亨吉研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 明治30年代の一高
3. 学会等名 旧制高等学校記念館第24回夏期教育セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽みさと
2. 発表標題 狩野亨吉と旧制一高医学部
3. 学会等名 旧制高等学校記念館第24回夏期教育セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川下俊文
2. 発表標題 第二臨時教員養成所 一高における教員養成
3. 学会等名 旧制高等学校記念館第24回夏期教育セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 狩野亨吉科研の三年間
3. 学会等名 シンポジウム「狩野亨吉研究の現在」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽みさと
2. 発表標題 狩野亨吉と旧制一高医学部
3. 学会等名 シンポジウム「狩野亨吉研究の現在」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川下俊文
2. 発表標題 第二臨時教員養成所 一高における教員養成
3. 学会等名 シンポジウム「狩野亨吉研究の現在」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 仮名文の中の真名
3. 学会等名 セミナー「文字世界のフロンティア」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 東大本『源氏物語』と新たな本文研究プラットフォーム
3. 学会等名 東京大学デジタル万華鏡
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 田村隆（解説）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波文庫	5. 総ページ数 653
3. 書名 源氏物語 五	

1. 著者名 田村 隆	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 300
3. 書名 省筆論	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 612
3. 書名 源氏物語 1	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、島津 久基、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 622
3. 書名 源氏物語 2	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、島津 久基、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 571
3. 書名 源氏物語 3	

1. 著者名 東京大学教養学部	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 東京大学駒場スタイル	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、島津 久基、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 514
3. 書名 源氏物語6	

1. 著者名 丹羽みさと	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 264
3. 書名 八百屋お七論 近代文学の物語空間	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、島津 久基、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店78-4003510216	5. 総ページ数 636
3. 書名 源氏物語7	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京大学駒場図書館開館15周年記念誌  
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/news/20180322>

東京大学教養学部創立70周年記念展示「一高校長時代の狩野亨吉 教養学部の前史として」パンフレット  
<http://hdl.handle.net/2261/00077200>

「一高中国人留学生と101号館の歴史展」(東京大学東アジア藝文書院(EAA)との共催)パンフレット(冊子体のみ)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	折茂 克哉  (Orimo Katsuya)  (30376579)	東京大学・大学院総合文化研究科・助教   (12601)	
研究分担者	丹羽 みさと  (Niwa Misato)  (90581439)	立教大学・江戸川乱歩記念大衆文化研究センター・助教   (32686)	
研究協力者	川下 俊文  (Kawashita Toshifumi)	東京大学・大学院総合文化研究科   (12601)	
研究協力者	鶴田 奈月  (Tsuruta Natsuki)	東京大学・大学院総合文化研究科   (12601)	
研究協力者	山根 泰志  (Yamane Yasushi)	九州大学・附属図書館   (17102)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	曾根原 理 (Sonehara Satoshi) (30222079)	東北大学・学術資源研究公開センター・助教  (11301)	